



ナイス福岡 会報

自然感

くすのき

2025年12月
第365号



- 冬枯れ一歩手前の、静かだけどカラフルな秋の森。

小鳥たちにとっても、恵みの季節。木の実・草の実がイッパイ！ aiko.

都市公園で自然観察会 県立春日公園での自然観察会(167回)

日時：2025年12月20日(土)10時から12時まで

集合場所：公園の中央付近にある自然あそび館

春日公園初冬の風景 2025年12/2 撮影:田字草

「問い合わせ先」 担当: 田村耕作 Tel 090-8220-6160(田村)

参加費 会員200円 一般 300円 生きものに关心のある方ならどなたでも



注意 各団体とも、様々な状況により、下記の予定も当日でも変更になることがあります。詳しくは各団体にお問い合わせください。

日本野鳥の会 福岡支部 主催

12月21日（日）1月18日（日）
天拝山探鳥会（筑紫野市）
時 間：9:00～12:00
集 合：天拝山歴史自然公園
問合せ：重松尚紀ほか

12月13日（土）1月10日（土）
大濠公園（福岡市）
時 間：9:00～12:00
集 合：ボート乗り場前
問合せ：持永俊行ほか

※一般参加費：300円（中学生以下無料）

12月28日（日）1月25日（日）

久末ダム探鳥会（福津市）
時 間 9:00～12:00
集 合：久末ダム多目的広場横駐車場
問合せ：高原和幸ほか

12月14日（日）1月11日（日）
和白海岸探鳥会（福岡市東区）
時 間：9:00～12:00
集 合：JR 和白駅前の公園
問合せ：山本廣子ほか

）問合せ先090-8220-6160（田村耕作）

2026年1月4日（日）2月1日（日）

今津探鳥会（福岡市西区）
時 間：9:00～12:00
集 合：玄洋高校西側道路
問合せ：宇都順吉ほか

2026年1月6日（火）
県営春日公園（春日市）
時 間：10:00～12:00
集 合：音楽堂ステージ側（第5P）
問合せ：田村耕作ほか

三国丘陵の自然を楽しむ会 主催

<http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/>

2026年1月10日
(第2土曜日)

集 合：九州歴史資料館
第一駐車場
時 間：9:30～11:30

問合せ：092-920-3072
コロナ対策：ブログにて確認
ブログ 「三国丘陵の自然を楽しむ会」で
検索

福岡植物友の会

詳細はお問合せください。
中小路 香 (092-864-7585)
参加は有料 要予約

日本野鳥の会 筑後支部

12月21日（日）
山神ダム（筑紫野市）
時 間：9:00～12:00
集 合：山神ダム展望公園駐車場
問合せ：090-2857-8526（高田千代）

久留米の自然を守る会

2026年2月14日（土）
総 会：13:30～
講演会：14:00～15:00
場 所 くるめウス会議室
問合せ：0942-43-7959（河内俊英）



カワウ 三国・松永



三国丘陵の自然を楽しむ会 観察の様子



ツチイナゴ 三国・松永

和白干潟を守る会

12月20日（土）
定期会議
時 間：12:00～14:00
集 合：和白干潟を守る会事務所
問合せ：092-606-0012（山本廣子）

12月20日（土）
クリーン作戦 と自然観察会
時 間：15:00～17:00
集 合：海の広場 駐車場なし
長靴・軍手があると便利
問合せ：090-1346-0460（田辺）

2025年11月
私のデジカメ日誌より

11月1日(旧暦9月12日)～11月30日(旧暦10月11日)までの
デジカメ日誌です。(文・写真 本のむし)

本のむし



11/2(旧9/13)筑紫野市天拝坂
ノウゼンカズラの種。平安時代の
『本草和名』に記載あり。中国原
産。地下茎で広がり手に負えない

11/4(旧9/15)太宰府市鷺田川
この日、義母が102歳で往生。感
謝。この鳥セグロセキレイは野生
で3～4年の寿命。日本原産。

11/18(旧9/29)大野城市大佐野
こちらはハクセキレイ。タイリクハ
クセキレイの亜種。写真は亜種ホ
オジロハクセキレイか?

11/5(旧9/16)筑紫野市天拝坂
今年、地球に一番近い満月。因
みに来年は12月24日で、今年
より240km近くなるらしい。



11/5(旧9/16)福岡市東区箱崎
クロベンケイガニだろうか。岸壁を
素早く動き回っている。アオサギ
が狙っていそうだ。

11/5(旧9/16)福岡市東区箱崎
この船溜まりは漁船が多くたっ
が、最近はレジャー・ボートが増え
たようだ。アオサギは必ずいる。

11/5(旧9/16)福岡市東区箱崎
最近いつ来てもオオバンがいる。
32年前青森で初見の頃、福岡で
は珍鳥だった。温暖化で定住?

11/5(旧9/16)福岡市東区箱崎
冬鳥のカンムリカツブリ。繁殖
期は冠羽が美しくこの名がある
が、冬羽は地味。春が待たれる。



11/11(旧9/22)太宰府市九博
トウカエデ紅葉。中国原産。18世
紀に中国から献呈とか。三裂葉
が蛙の手のようなのでカエルデ。

11/11(旧9/22)太宰府市九博
法然展に香川法然寺の佛涅槃群
像があり、猫がいる。いつからか
猫のいない涅槃図が多くなった。

11/11(旧9/22)筑紫野市天拝坂
カササギ(学名:Pica pica)が時折
やってくる。古代に朝鮮半島より移
入か。神埼辺りの限定種だった。

11/14(旧9/25)筑紫野市天拝坂
アラカシの団栗が鉢なり。葉陰に
ムラサキシジミの青紫が光る。幼
虫はこの堅そうな葉を食べる。



11/16(旧9/27)福岡市中央区春
吉 雷橋付近の薬院新川。冬鳥とし
て毎年見かけるホシハジロ。盛んに
潜って貝などを探索している。

11/26(旧9/6)筑紫野市二日市
チーという声と同時に目の前的小
枝に止まった。すぐ水面を見つめ
ていたが、また飛んでしまった。

11/24(旧10/5)筑紫野市天拝坂
サルスベリの幹にあったヘヤビン
カーブの歯模様。ガードレール
に多い。マイマイの仲間の食痕。

11/29(旧10/10)筑紫野市天拝坂
まん丸の羽繕い。留鳥だが姿をじ
っくり見るのは冬場のが多い。カワ
ラヒワ。キリッと鳴いて飛んだ。

春日公園自然観察会 令和7年11月15日（土）【参加者】6人【担当】田村耕作

観察は、自然あそび館～芝生広場・調整池を巡り～自然風庭園を経て自然あそび館にもどった。

観察内容 快晴、14°Cで開始。終了時は22°Cでした。

いろいろな生きものを観察した中で、主な種類を示します。

植物 ソメイヨシノ、ヒマラヤスギ、ユズリハ、ヒメユズリハ、ニシキギ、ラクウショウ、メタセコイア、ギンモクセイ、ヒイラギモクセイ、キンモクセイ、スズカケノキ、アキニレ、サルスベリ、イチョウの実（ギンナン）、シダレヤナギ、イヌマキの実、クヌギ、コナラ、ウバメガシ、アラカシ、スダジイ、マテバシイ。

昆虫 ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、キチョウ、ツマグロヒョウモン、アカタテハ、ヒメアカタテハ、ベニトンボ、ショウジョウトンボ、マユタテアカネ、コノシメトンボ。

野鳥 モズ、スズメ、メジロ、コゲラ、ヤマガラ、エナガ、ウグイス、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジバト、シジュウカラ、ムクドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アトリ、カワラヒワ、アオサギ、マガモ、アヒル、カワラバト。

感想（参加者、その場の声）

- ・ラクウショウ、メタセコイア、それぞれの実の違いを観察できた。
- ・ギンモクセイ、ヒイラギモクセイの葉、香りの違い、観察できた。
- ・ソメイヨシノの紅葉、色の違う落ち葉を並べ、その色の変化を体験した。

観察開始

ソメイヨシノの落ち葉、色並べ

ニシキギ



ユズリハの実の付き方



ヒメユズリハの実の付き方



キタテハ



コノシメトンボ♂♀



鮮やかな色のベニトンボ♂



ギンモクセイ



撮影：田村耕作

会員からの投稿（1）自然観察会(11/15)に参加された会員岩井結友美さんからの感想

先日は、やわらかな秋の日差しの中での観察会でした。昨年の同じ時期を思い出しながら、ラクウショウの実やメタセコイア、さまざまなどんぐりを見つけ、秋の深まりを感じる時間になりました。名前を忘れてしまった大きな茶色の葉とラクウショウの実は、今も自宅に飾っています。植物はどれも暮らしに活かせるものばかりだと改めて感じます。現代は“おいしい”や“映える”を追い求める食文化が主流ですが、ほんのりとした甘さや素朴で懐かしい味わいの方が自然の恵みを近く感じられ、体にもやさしいと、観察会に参加するたびに思います。マテバシイなども、機会があれば味わってみたいです。



季節は、花が咲き、実がなり、種をつくり、芽吹き、植物と虫たちが関わり合う—そんな変化を毎年繰り返しています。

その面白さと神秘にふれる時間は、とても豊かだと感じました。



会員からの投稿（2）橋川夫妻の我が家自然観察日記 —クリタケ—

庭で栽培しているクリタケが発生し始めました。日を追うごとに大きくなり食べごろを見計らって収穫です。7～8年前、切り倒した庭の木に種駒を打ち込み、地面に軽く埋め込みました。2年後くらいから毎年少しづつ収穫しています。広葉樹の不要な残材はいろいろなキノコの栽培に使えますよ。

写真1 11月14日 頭を出しているのを見発見

写真2 11月16日 少しだけ大きくなりました

写真3 11月18日 こんなに大きく！ あと少し

写真4 11月20日 収穫です

写真1



写真2



写真3



写真4



会員からの投稿（3）秋山芽生子 博多湾の東部を中心に活動中

干潟やその水辺で、野鳥たち休める自然があるのですね。

立花山と博多湾の関係



休むヒドリガモ♂



ミサゴ3羽が休む



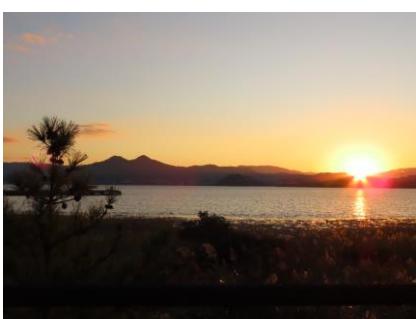
ミヤコドリ・ダイゼンなどお休み中



たくさんの種 センニンソウ



食事を始めるトビ、ボラかな



👉 11/23 7時9分日の出

会員からの投稿（4）九州自然協議会(かごしま)に参加された原茂 原桂子夫妻からの投稿

11/29（土）14時 丸岡公園内さくら館集合、受付
14時30分 「知られざるカワゴケソウの世界 タシロカワゴケソウ
特異分布とその生態」大工園認氏 講演
17時 各県の活動状況と全国の様子、18時 懇親会
11/30(日)6時30分 早朝散策
丸岡公園内、展望台から霧島連峰、桜島等を眺める
9時30分「近年の南九州昆虫の話題」鹿児島県昆虫同好会会长二町一成氏講演
11時30分 解散



1日目はカワゴケソウの話して、川の中に生息してコケと付いているが草花だそうです。限られた地域でしか発見されてないそうで珍しい植物だそうです。

2日目の昆虫の話は、「ちょう」と「が」の違いからちようのオス、メス両方の機能を持つ雌雄型の話など、こんなに「ちょう」の種類があるのかとびっくりさせられるくらい説明がありました。

感想☆

霧島は紅葉まったく中で色とりどりの木々の中、早朝散策をしました。

丸岡公園内の展望台から望む霧島連峰の山々と雲海、日の出もあり、別方向からは噴火している桜島も見え、幻想の世界にいるような気持ちでした！

会員からの投稿（5）自然観察指導員講習会（熊本県阿蘇）参加報告 岩井結友美

講習テーマ～「自然観察からはじまる自然保护」生物多様性の保全をめざして～自然観察指導員講習会に参加し、阿蘇で一泊の講習を受けました。天候にも恵まれ、二日目の早朝オプションでは、日の出前の寒さの中で行われた観察会で、夜明けとともに雲海とカルデラの景色を望むという感動的で貴重な体験ができました。

フィールドワークでは、マクロからミクロへと視点を移しながら、森の内と外、土の中、動物の痕跡など、さまざまな環境を観察しました。自分の気づきだけでなく、仲間の発見を共有することで視野が広がり、自然観察の奥深さを改めて感じました。

座学では、自然観察の意味や自然保护とのつながりを学び、「知識を増やすだけでなく、自然のしくみに気づく場をつくることが大切」であることを理解しました。

2日目のミニ講座では、4～5名のグループに分かれ、それぞれが自然観察指導員としてミニ講座を実践しました。私は「ミクロの世界をみつける観察」をテーマに、森を“自然の大きな家”、その外側の石垣を“自然のマンション”に見立て、生きものたちの世界を探す観察を紹介しました。身近な場所でもできる観察で、皆さんと共有できたことが楽しい学びになりました。他の方の発表も多様で、新しい視点に触れられたことが刺激になりました。



ウメバチソウ 可愛いですね

今回の講習を通して、自然への理解は「気づきの積み重ね」で深まることを実感しました。そして、自然観察を通して自然保护の意識が育つことも強く感じました。これからは、いろいろな場面で、さまざまな人と一緒に自然観察を楽しみ、自然への理解を深める仲間を広げていけたらと思っています。また、この二日間で多くの方と出会い、とても充実した講習会でした。今回の経験を、今後の活動の励みにしていきます。

会員からの投稿 (6) 関の山地域の案内 会員唐川宣久さんからの投稿

関の山全景、JR 筑前庄内から、登山口まで 30 分、山頂まで普通に歩いて 1 時間程、観察会にいかがでしょうか😊
山頂にはちょっとしたカルスト地形がありますよ。遠くに、



福智山、香春岳、その奥に平尾台を望めます。

見かけた植物を紹介します。コバノチョウセンエノキは氷河期の残存種とされ、葉がやや厚く、葉先が細く尖るのか特徴。
道端で見つけたマメダオシはヒルガオ科の寄生植物。コバノガマズミ、ゴンズイの実（海にも同じ名前の危険な魚がいますが、どちらも役に立たないと言う意味か有るらしい。）田んぼで見つけたサクラタデ、関の山山頂には、カワミドリ、フュザンショウ、サンショウと同じ香りがします、これは、常緑樹です。



遠賀川の鳥たちはダイサギ、川の中に、カワウ、その向こうに、カルガモなどのカモ類も見かけます。

嘉麻市、嘉穂益富城跡の恒例行事、一夜城、10月下旬から 11 月初めに観られます

会員からの投稿 (7) 糸島市在住 ねこ

国際サシバサミットでポスター発表された「神奈川県横須賀市におけるサシバの繁殖再開を目指した里山再活動の取り組み」の紹介

2025 年 10 月 25 日に、奄美大島の大島郡宇検村で開催された「国際サシバサミット 2025」に参加しました。10 月 25、26 日の二日間に渡り開催されました。私は初日のみの参加です。

国際サシバサミットは「サシバは国境や海を越えて“渡り”をするタカ。しかし、環境の変化によって、いま絶滅の危機にあります。サシバを守るためにには、越冬地・中継地・繁殖地が連携して保全を進めることが必要」という理念のもと、これまで日本・台湾・フィリピンの3カ国で計4回開催されています。今回は、第5回目として、たくさんのサシバが冬を越す、宇検村で開催されたとの事。世界自然遺産の登録地域である湯湾岳から、美しく豊かな焼内湾、その沿岸に全14のシマ（集落）を有する宇検村には、300羽を超えるサシバが越冬する自然豊かな場所であるとの紹介がありました。なお、2021年11月に実施された一斉調査（手弁当だそうです）によると、奄美大島と加計呂麻島を合わせて2000羽以上のサシバが越冬していることが明らかになったそうです。

同サミットでは、基調講演『サシバはなぜ奄美大島を越冬地として選ぶのか?』、海外からの活動報告（フィリピン／台湾／韓国）、ポスター発表の他、開催を記念して、マルシェが同時開催され賑やかでした。

詳細については、(公財)自然保護協会のホームページにて、過去4回の開催内容や2025年の今大会までが紹介されています。オンラインによる動画配信もあり、とても興味深かった基調講演も見る事が出来ます。ご興味がある方は、ぜひご覧ください。

<https://www.nacsj.or.jp/GFB-SUMMIT/>
国際サシバサミットが紹介されているホームページアドレス
と QR コードです



前置きが長くなりましたが、同サミットのポスター発表で、気になる活動を知る機会がありましたので、ご紹介させていただきます。

「神奈川県横須賀市におけるサシバの繁殖再開を目指した里山再生活動の取り組み」というタイトルのポスターの前で、発表者である天白牧夫さんが取り組みを説明して下さいました。

(公財)自然保護協会が全体をコーディネートしている取り組みなので、ご存知の方も多いかもしれません、天白さんが代表を務めていらっしゃるNPO法人 三浦半島生物多様性保全が保全計画の提案及び実践を担い、横須賀氏環境政策部が許認可及び調整、横須賀里山田んぼ俱楽部が復田に必要な人員を提供する形で実施されているとの事。

活動では、三浦半島の谷戸田でかつては繁殖していたサシバの繁殖再開を目的として、荒れ果て原型をとどめていない休耕田を復活させ、伝統的な谷戸田の手入れの再開を通して、サシバの餌資源を確保する取り組みを中心に、サシバの若鳥の移動時期に合わせて好適な繁殖環境として認識されるよう考えられる限りの手立てを講じていく事を計画。サシバは里山の豊かな生態系シンボルであり、サシバが生息できる環境は景観や自然体験の場としても優れた空間であると考え、市民団体や企業など様々な主体の協働を促して活動を展開されてこられたそうです。

結果として2019年2月から現地の復田を開始し、2025年までに20,128m²の休耕田を復田された現在でも、サシバが立ち寄る事はあっても、残念ながら定着には至っていようです。

最後に、天白さんがサシバの繁殖再開活動とポスター発表にかける思いをお話されたのがとても印象できました。「これから先もサシバが戻って来てくれるよう、水田を広げ続けて行きます。ですが、サシバは戻って来ないかもしれません。戻つて来てほしいですが、戻って来ない気もします。来年も成果を発表する予定でいますが、特に大きな成果はお伝え出来ないかもしれません。ですが、一度損なわれた環境を取り戻す事は簡単な事ではない。“こんな事をしてはいけない”と言う失敗例として、皆さんにお伝えしていきたい」そうおっしゃっていました。

神奈川県三浦半島は丘陵や谷戸(やと)が多く、かつて水田耕作が盛んに行われており、谷戸田は元来湿地環境であるため、およそ3000年前の弥生時代からその自然地形を活用してきた農的環境であり、生物多様性に対して正の効果をもたらす営みとして維持されていた。しかし、首都圏近郊に位置する地域制から、谷戸は1970年代には半減し、現在では稻作で生計を立てる農業者はいなくなった。1950年代の三浦半島の谷戸田では、毎年サシバの繁殖が各地で観察されていた。その後、1970年代まではありふれていたサシバの生息環境は、1990年には10箇所以下に激減。1997年に葉山町長柄での営巣を最後に繁殖は停止しているとの事。

会費振込について

会計年度は6月から翌年5月末までです。会員の皆様、2025年度会費を、各自ご確認の上、郵便局にて下記の郵便振替口座に振り込みをお願いいたします。

年会費:2000円 郵便振替口座:福岡県自然観察指導員連絡協議会 01760-9-15783

定例会

次回の定例会は、令和8年1月9日(金)午後2時より事務局で行います。令和8年1月号の原稿は、1/6(火)までに届くようにお願いします。なお、原稿を掲載するに当たっては編集担当にお任せ願います。

編集後記 2025年11月の定例発送会は、藤川渡と田村耕作が、それぞれの自宅で作業。

私たちの活動の場の一つ県立春日公園には、園内数ヶ所にイヌマキが生育しています。雌雄別株で5~6月に花を咲かせますが、余り目立たないです。でも、10月から12月にかけて、雌株の木には、小さな2つの団子のような実を付けます。私は、この実のうち、赤い部分がこのみの味があるので、見かけると味わいます。公園内を散策している人たち、あまり興味がないのでしょうか。もったいないなあと思います。

この公園、食べられる実がいろいろあります。ヤマモモ、ムクノキ、エノキ、サンゴジュなど、ヤマイモのムカゴもあります。関心をもつと、散策が面白くなると思いますよ。

イヌマキの実 11/15
春日公園にて
撮影:田字草

